

群 教 セ	F09 - 01
	平 15.217集

# 不登校に対する校内の 連携意識を高める工夫

- 「メッセージカード」の活用を通して -

特別研修員 鈴木 守幸 (大泉町立西小学校)

## 《研究の概要》

不登校児童とのやりとりや気付いたことなどを、「メッセージカード」に記録していくことにより、職員の不登校に対する意識の高揚が図られる。また、その記録を集積したファイルを作成し、そのファイルの情報を活用することで、「ほっとルーム」のもつ機能（援助・指導）を学年会や専門機関との連携等で生かすことができる。このような実践過程を経て校内の連携意識が高められることを実践を通して研究した。

【キーワード：教育相談 メッセージカード 記録 ほっとルーム 連携意識 生徒指導】

## 主題設定の理由

学校では、不登校児童及びその傾向にある児童に対し、その児童それぞれに応じた指導を続けているが、心の奥底まで理解することはなかなか難しい。そのため、その児童に必要な登校刺激を与えられなかったり、不登校の原因を精神的な弱さや家庭の教育力の低さなどと一方的に決めつけてしまったりすることもあると考えられる。校内での情報交換や対応策の検討が不十分であれば、職員間の共通理解が難しく、適切な指導はできない。

また、不登校児童及びその傾向にある児童への指導は、学級担任が中心になることが多く、その負担も大きい。家庭や学校は、専門機関と連携し、不登校児童及びその傾向のある児童に対する的確な対応の仕方を身に付けなければならない。しかし、それ以前に全職員が不登校の問題解決に高い意欲を持ち、積極的に取り組む姿勢が大切である。

そこで、全職員が自校の不登校の現状を知り、校内の連携意識を高めることによって、不登校児童及びその傾向にある児童を的確に理解し、その対応について組織的計画的にかかわるシステムができるのではないかと考えた。

不登校児童及びその傾向にある児童とのやりとりや気付いたことを全職員が記録し、それをもとに担任と連携し、その後の指導に役立てる「メッセージカード」を活用すれば、校内の連携意識が高められるだろう。また、「メッセージカード」を活用することで、「ほっとルーム」の3つの機能（人間関係作り、援助・指導、情報発信）のうち、援助・指導の機能を学年会や指導方針を決める検討会、専門機関との連携等で生かすことができ、不登校児童及びその傾向にある児童への適切な援助・指導につながると考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

校内の不登校対策において、不登校児童及びその傾向にある児童を対象に「メッセージカード」を活用することにより、全職員の不登校に対する連携意識の高揚が図られ、不登校児童及びその傾向にある児童への適切な援助・指導につながることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 不登校児童及びその傾向にある児童を対象に、毎日のやり取りや気付いたことを全職員(対象児童とかかわったり、対象児童に対して気付きをもったりした職員)で記録することにより、不登校に対する全職員の意識の高揚を図ることができるであろう。
- 2 「メッセージカード」をシートに貼りつけ、記録を集積していくことにより、不登校児童及びその傾向にある児童の心の動きを的確にとらえ、援助・指導の方針やそのきっかけを探ることができるであろう。
- 3 「メッセージカード」をもとに、不登校児童及びその傾向にある児童の援助・指導について、話し合うことで、全職員が、積極的に援助・指導しようという連携意識が高められるであろう。

## 研究の内容及び方法

### 1 「メッセージカード」について

#### (1) 作成のねらい

- ア 不登校児童及びその傾向にある児童を対象に、毎日のやり取りや気付いたことを全職員(対象児童とかかわったり、対象児童に対して気付きをもったりした職員)で「メッセージカード」に記録することにより、不登校に対する意識の高揚を図る。
- イ 「メッセージカード」の記録をもとに、援助・指導の方針やそのきっかけを探る。
- ウ 対象児童理解の観点(学力や問題行動等)を見出す。
- エ 対象児童に関する情報を共有化し、活用するとともに、一定期間の援助・指導を評価するための資料とする。

#### (2) 活用の対象

昨年度 30 日以上欠席した児童、月 6 日以上欠席がある児童、欠席の兆候があり、今の時点で年間 30 日以上欠席すると思われる児童を対象児童とした。

#### (3) 形式

日付、曜日、対象児童番号、記入者名(ここではイニシャル)、時間を書いた付箋紙に、対象児童とのやり取りや援助・指導したことやその時の反応、言動、表情、気付いたこと、担任へのアドバイス等を記入し、できる限りその日のうちに担任に渡す。

#### (4) 保管場所

「メッセージカード」は、担任が、シートに貼り付け、コメントなどがあれば、記入し、対象児童別のファイルに保存する。ただし、秘密を要する内容が記録されているので、その管理には十分注意する。

#### (5) 活用

ファイルに保存された「メッセージカード」をもとに、担任は、対象児童への日々の対応に役立てる。また、担任以外の職員は、

#### 資料 1 メッセージカードの記入例

10 / 3 (金) 3234 Z 3H算数  
・教科書を忘れたので、隣の級友に見せてやるように言った。はずかしそうに見せてもらっていた。計算問題を一問解くことができた。  
・少し表情が明るくなってきたように思う。

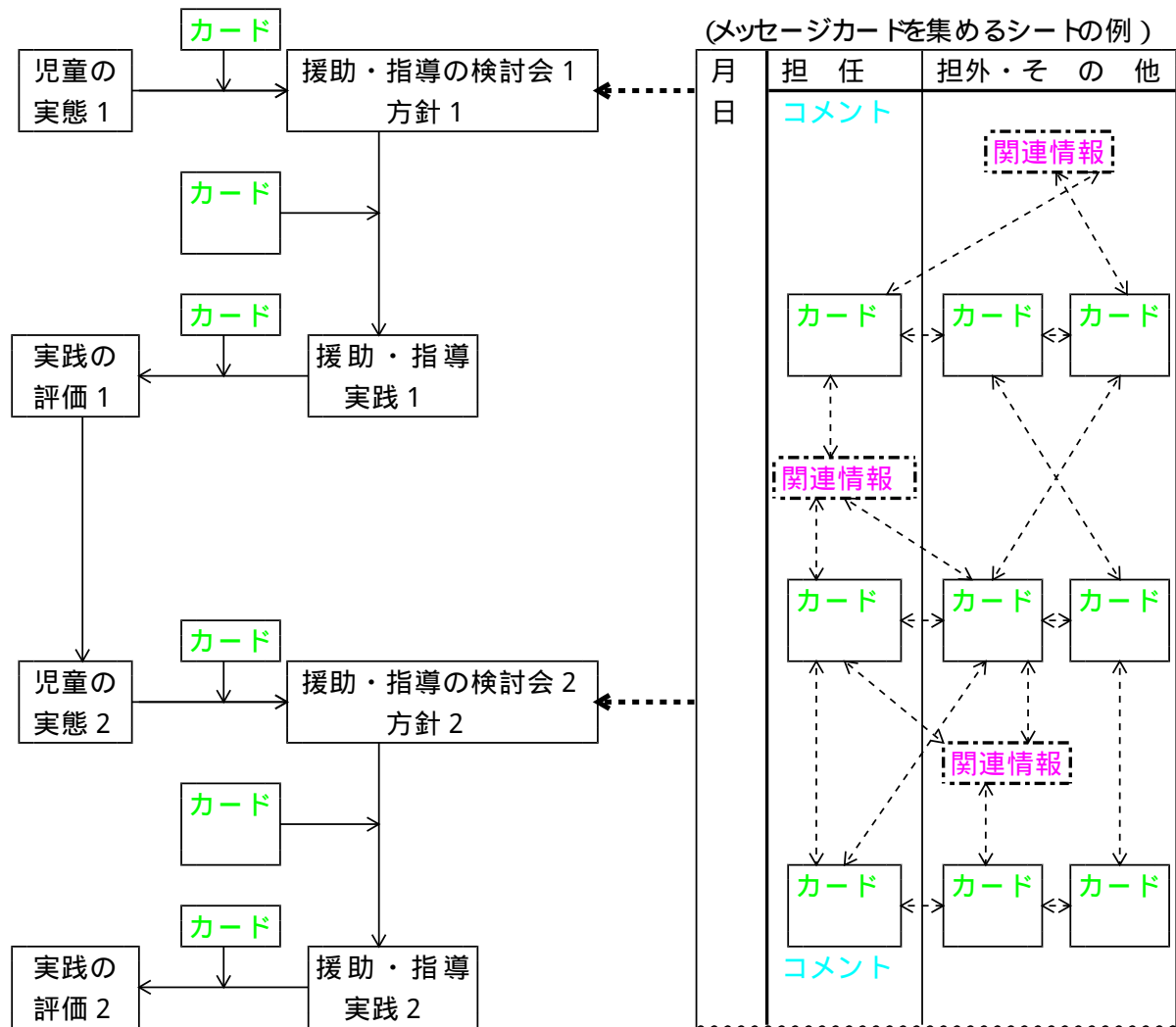
#### 資料 2 メッセージカードを集めるシート

月日	担任	担外・その他		
	コメント			
	カード	カード	カード	カード
	カード	カード	カード	カード

折りに触れ、それを見て、対象児童の日々の様子を把握し、自分が援助・指導するときの参考にする。また、学年会や指導方針を決める検討会、専門機関との連携等の資料として活用する。

(6) メッセージカードの構想図

下の図のように、記録の集積により、メッセージカードとそれに伴う関連情報との相互のネットワークが強化され、担任や担外・その他の職員が気付かなかった新たな視点を見出すことができ、児童理解が深まり、援助・指導に役立つだろう。



**関連情報** は、検討会で出された情報  
 -----> は、関連があることを示す

2 校内指導体制について

不登校問題は、一個人に限った問題ではなく、その対応策として決定的なものがない。そのため、不登校児童及びその傾向にある児童への指導・援助は、校内の全職員をあげて取り組まなければならない。そこで、全職員が積極的に援助・指導にあたるための体制を確立することが必要である。

(1) 「ほっとルーム」委員会の設置

不登校（長欠）対策として「ほっとルーム」委員会を設置し、不登校（長欠）対策対象児童に対して、全職員で援助・指導を行うことを決めた。

ア 組織（生徒指導・教育相談部会が、中心的な役割を果たす。）

校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、教育相談主任、養護教諭、「ほっとルーム」運営のリーダー、各学年の生徒指導・教育相談部から1名、不登校（長欠）児童の所属する学級の担任で委員会を組織し、会議は、生徒指導部会や教育相談部会の後半で行う。

イ 対象児童

昨年度30日以上欠席した児童、月6日以上欠席がある児童、欠席の兆候があり、今の時点で年間30日以上欠席すると思われる児童。

ウ 機能

不登校（長欠）児童・不登校（長欠）傾向児童の把握、登校促進対策の立案、記録・啓発（メッセージカード・ファイルの整備、研修会の開催・紹介）活動、他機関との連携、「ほっとルーム」の整備・運営等。

エ その他

詳細は、省略。

実践を通しての考察

## 1 「メッセージカード」の活用について

### (1) 学年会の資料として

学年会で「メッセージカード」をもとに対象児童について話し合うときに、自分で書いたことについて補足説明をしたり、忘れていたことを思い出して、書き足すこともできた。そして、自己の指導を振り返り、これからの援助・指導について検討することができた。

### (2) 「ほっとルーム」委員会の資料として

対象児童に関する記録が集まっているので、他学年の対象児童の様子もわかり、各自が積極的に会議に参加することができた。

### (3) 町の教育研究所との連携の資料として

守秘義務の範囲内で学校の様子や町の教育研究所での様子を情報交換するときの資料として利用することができ、双方の情報を共有化することができた。また、町の教育研究所の指導員が本校の「ほっとルーム」に来て、対象児童を指導する機会を設定することができた。そして、町の教育研究所に通う不登校の中学生と本校の不登校児童が、一緒に「ほっとルーム」で、給食を食べたり、学習をしたり、掃除をしたりすることができ、町の教育研究所との連携を図ることができた。

### (4) 群馬県総合教育センター（以下センターと呼ぶ）との連携の資料として

センターの指導主事、研究員に来校してもらい、援助・指導の検討会を行った。

（中略 詳細は、群馬県総合教育センター図書室資料参照）

## 2 検討会に参加した職員の感想

他の仕事で忙しいときは、「メッセージカード」を書くことを忘れてしまうこともあるが、なるべく思いついた時、すぐに書くようにした。

皆で対象児童のことを考えてあげられるので、とてもよいシステムだと思う。かかわりのあった職員の声が直接聞けるのは、よいと思った。

児童にかかわり、指導している職員が集まって、情報交換し、考えを出し合うことで、見方を変えることもできると思った。今後も、問題行動をとる児童において、こんな機会があると、新たな見方や指導ができるのではないかと思った。

一人で考えるのではなく、学校の内外からの援助・指導法について共有できるのが、有り難かった。

センターから、守秘義務の範囲内でも情報をいただけたのが、有意義だった。

「メッセージカード」は、難しいことではなく、手軽に書けるので、よいと思う。

自分以外の職員の対応が具体的に分かり、対象児童への接し方の参考になった。

「メッセージカード」は、情報と事実が蓄積でき、変化や様子がよく見えるので、有効であると思った。

小学校は、担任の授業が多く、複数の職員からの意見を聞くことは、あまりないので、担任には見せない本人の素顔などの情報が少ない。今回、いろいろな立場の方の意見が伺えて、自分の知らなかったことを発見したり、自分のしてきたことを確認したりすることができた。そして、これからやるべきことや、その方向性を見出すよい機会になったと思う。担任だけでなく、その他の職員も自分の対象児童に対するかかわり方が具体的にようになってきたように思われる。

「メッセージカード」を書く前に、担任と話をしている。そのことを書き留めておくに立つことが実感として分かった。

校内の職員だけでなく、センターの先生にも参加してもらえて、たいへん参考になり、自分たちのやってきたことが、「これでよかった。」という気になった。そして、「また、頑張ろう。」という気になってきた。

情報と情報の連携は、人と人の連携でもあるので、情報収集のためのネットワークをこれからも強化していきたい。

### 3 「メッセージカード」の実践から分かったこと

行動や態度だけではなく、対象児童の表情も教師への語りかけであることを忘れてはいけない。

教師自身に心の余裕がないと、対象児童の見える部分も見えなくなる。

T、Tなど複数の教師が指導にあたる状況では、複数の職員から「メッセージカード」が集まり、情報交換をするうえで、有効な手段である。

対象児童が、自分の予測と食い違ったことをしたときや自分で疑問に思ったことなどは、必ず記入するとよい。(検討会での話題提供や対象児童に対する理解を深めることにつながる。)

記入を忘れてしまうこともあるので、気付いたときに、ちょっと書きとめ、時間後に補足するとよい。

「メッセージカード」に書かれた事実を断片的に把握するのではなく、事実をつなげて解釈することを通して、あらわれてきた諸事実の背後にある対象児童の個性的な面(考え方、感じ方、行動の仕方、生き方など)を把握しようとするのが大切である。

担外から担任へ、あるいは、担任から担外へのアドバイスの内容もカードに書いてもらえると、すぐに対応できる。

最初の一冊を書くと、書きやすくなる。

忙しくて「メッセージカード」を書くことを忘れてしまうこともあるが、対象児童のことをいつも意識しているので、書くべきことは、頭の中に残っていて、担任と話したり、検討会で話したりすることができる。

「メッセージカード」を担任に渡すとき、担任から一言返してもらおうと、こちらも一言返すようになるので、連携している実感がもてる。

## 研究のまとめと今後の課題

今回の実践を通して、次のことが明らかになったと考える。

対象児童の毎日のやり取りや気付いたことを全職員（対象児童とかかわったり、対象児童に対して気付きをもったりした職員）で「メッセージカード」に記録しようという試みは、対象児童に対して何らかの援助・指導をしたいという職員の意識のあらわれであり、この意識は「メッセージカード」への記入や検討会などを通して少しずつ高まってきたことが、検討会に参加した職員の感想からもわかる。

「メッセージカード」をシートに貼りつけ、記録を集積したことにより、対象児童の変化がつかめ、しっかりとした話し合いの土台ができた。そして、学年会や検討会では、「メッセージカード」や関連情報などをつなげて理解することができ、対象児童の心の動きを的確にとらえ、援助・指導の方針や対応のきっかけを探ることができた。

「メッセージカード」をもとに、対象児童の援助・指導について、話し合うことは、自分の持っている情報と自分以外の職員の持っている情報を共有化し、しっかりとした共通理解を図り、学年会や「ほっとルーム」委員会を中心としたチームで共通実践をすることにつながった。

一方、本研究における課題としては、次の点が挙げられる。

今回の研究は、不登校・不登校傾向にある児童への対応であったが、その範囲を広げ、気になる児童を対象にするなど、予防的、開発的側面への対応も必要であろう。

不登校児童及び不登校傾向児童にとって、保護者は大きな資源であるので、職員以外の保護者などにも対象を広げた援助・指導の検討会を開催できると更に効果的であると考えられる。